

やまぐちっ子

キャリア・パスポート

— 高等学校版 —

活用の手引き



平成31年4月

山口県教育委員会

はじめに

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっています。このような時代にあつて、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められています。

平成30年3月に告示された新高等学校学習指導要領では、生徒一人ひとりの発達を支える視点からキャリア教育の一層の充実が示され、生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ることとされました。

こうした中、県教委においては、平成30年10月に新たな山口県教育振興基本計画（2018年度～2022年度）を策定しました。本計画では、前計画で掲げた教育目標「未来を拓く たくましい『やまぐちっ子』の育成」を継承し、志をもち、主体的に自らの未来を切り拓く子どもたちの育成に向け、引き続き、基礎的・汎用的能力の育成及び志を抱かせる教育の充実を図ることで、キャリア教育を推進することとしました。

このたび、基礎的・汎用的能力の育成及び志を抱かせる教育の推進に資するよう、高等学校、中等教育学校後期課程及び特別支援学校高等部向けに、生徒用教材例示資料「やまぐちっ子キャリア・パスポート ー高等学校版ー」及び教員用指導資料「『やまぐちっ子キャリア・パスポート ー高等学校版ー』活用の手引き」を作成しました。一人ひとりのキャリア形成と自己実現に向けた指導を行う際に、本資料を活用しつつ、各学校において創意工夫を加えながら、キャリア教育の充実に向けた取組を一層推進していただきますようお願いいたします。

平成31年4月

山口県教育庁高校教育課長 木村 香織

目 次

1 山口県におけるキャリア教育の推進について	
(1) 取組方針	3
(2) キャリア教育推進の視点と本県キャリア教育のねらい	3
(3) 取組の推進に向けて	3
2 やまぐちっ子キャリア・パスポートとは	
(1) やまぐちっ子キャリア・パスポートの定義とイメージ	4
(2) キャリア・パスポートを活用する意義	5
(3) 期待される効果	5
3 キャリア・パスポートの活用	
(1) キャリア・パスポートへの綴り方	6
(2) 「やまぐちっ子志シート」について	7
(3) 効果的な指導方法	8
(4) 活用する上での留意点	9
【資料1】 キャリア・パスポートに関する学習指導要領上の規定	10
【資料2】 生徒用教材における指導上の留意点	11

1 山口県におけるキャリア教育の推進について

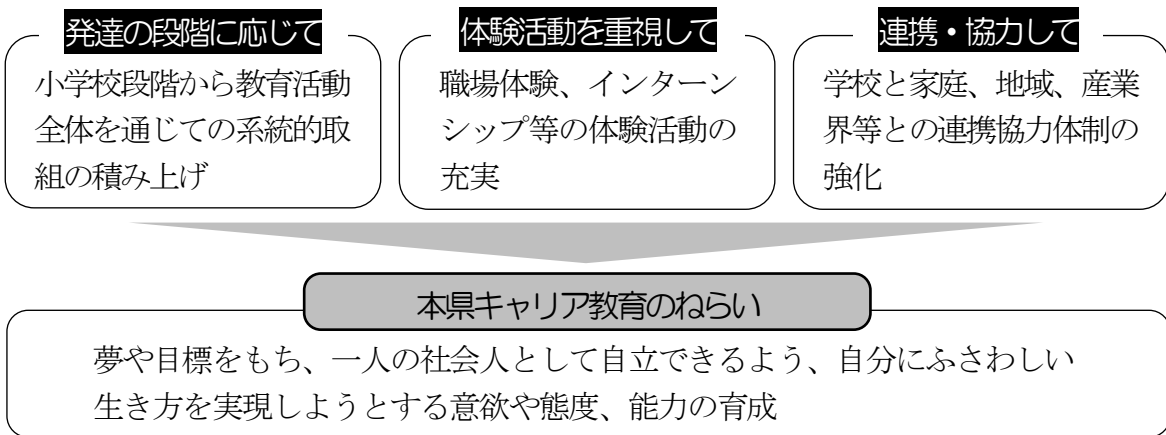
本県では、キャリア教育を推進するに当たって、取組方針等を次のとおりとしています。

(1) 取組方針

- 子どもたちの社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる「基礎的・汎用的能力」(P12参照)を育むとともに、夢の実現に向け、志を抱かせる教育の推進を充実させます。
- 学校で学ぶことと社会との接続を意識したキャリア教育を実践するとともに、全教職員の共通理解の下、学校教育活動全体を通じた組織的・効果的な取組の推進を図ります。
- 主体的に自らの未来を切り拓くとともに、郷土に誇りと愛着をもち、地域に貢献する子どもたちを育成するため、学校と家庭、地域、産業界等が連携したキャリア教育を推進し、体験活動をはじめとする教育活動の一層の充実を図ります。

(2) キャリア教育推進の視点と本県キャリア教育のねらい

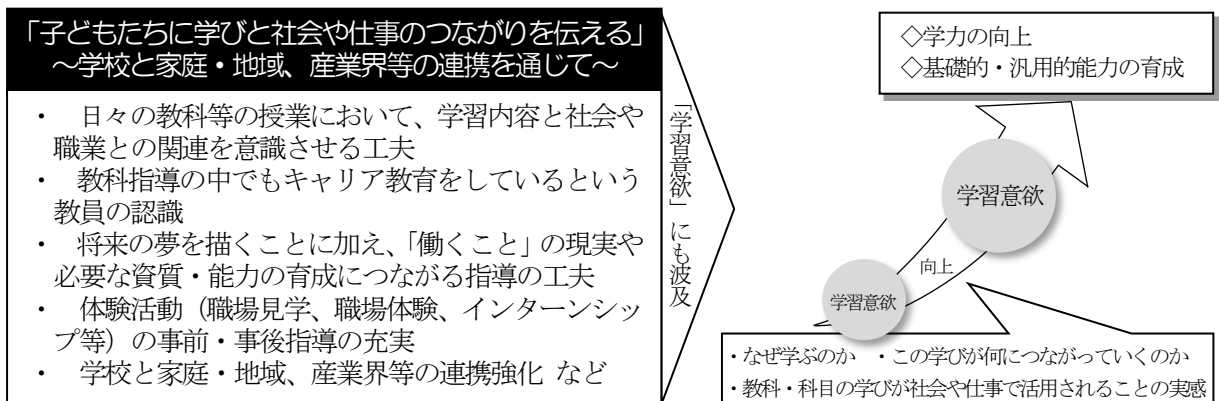
本県キャリア教育のねらいと、その実現に向けたキャリア教育推進の視点は、次のとおりです。



(3) 取組の推進に向けて

「基礎的・汎用的能力」の育成及び志を抱かせる教育の推進を図るため、主に次の内容について県民総がかりの取組を推進していきます。

- 小・中・高を通じた系統的・計画的な取組の推進
 - <発達の段階に応じて、夢や目標を考える(夢をデザインする)視点>
- 学校で学ぶことと社会との接続を意識し、学校教育活動全体を通じたキャリア教育の推進



2 やまぐちっ子キャリア・パスポートとは

(1) やまぐちっ子キャリア・パスポートの定義とイメージ

学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の在り方生き方を考えたりする活動を行う際には、生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用することが有効です。

キャリア・パスポートの定義

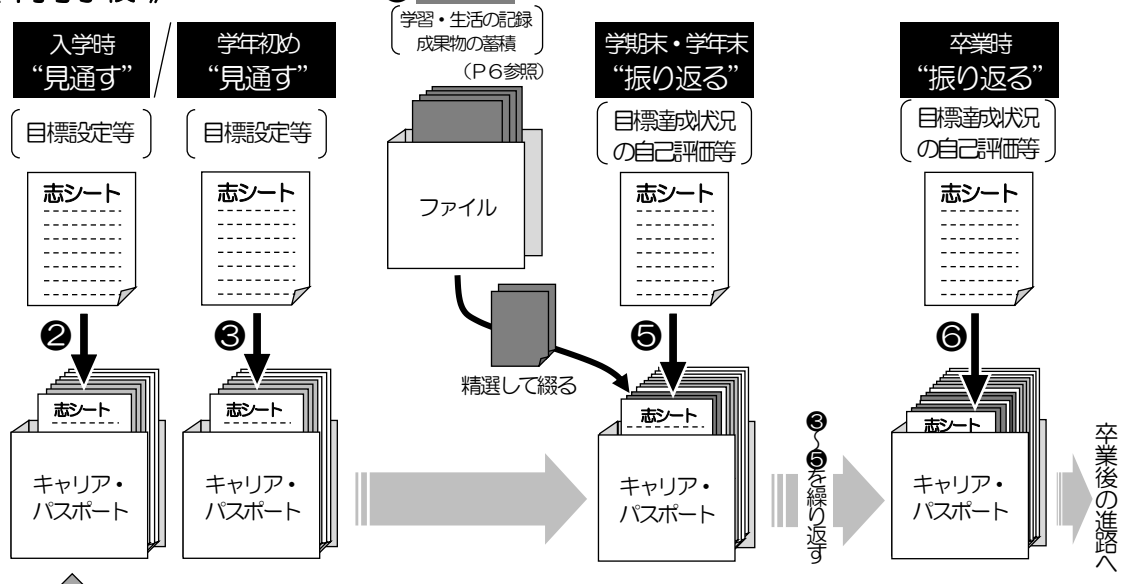
児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオ[※]のこと

※ 児童生徒の学習の過程や成果等の記録や作品を計画的に集積したもの

(出典) 文部科学省「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意事項

◎ やまぐちっ子キャリア・パスポートのイメージ

《 高等学校 》



① 持ち上げる



《中学校》

持ち上げる



《小学校》

- ① 小・中学校で記録・蓄積した「やまぐちっ子キャリア・パスポート」(以下「キャリア・パスポート」という。)を高等学校で持ち上がります。
- ② 入学時に、「やまぐちっ子志シート[※]」(以下「志シート」という。)を活用して、自己理解を深めたり、高校生活の目標を設定したりします。 **【見通す活動】**
- ③ 学年初めに、「志シート」を活用して、その学年の目標を設定し、新たな学習や生活への意欲につなげます。 **【見通す活動】**
- ④ 適時、学習・生活に関する記録や各教科等の学習に関する成果物(P6参照)をファイルに蓄積します。 **【記録・蓄積】**
- ⑤ 記録・蓄積したものを参考に、学期末や学年末に、「志シート」を活用して、目標の達成状況等を自己評価します。 **【振り返る活動】**
(③～⑤を繰り返す。)
- ⑥ 卒業時に3年間を振り返ります。 **【振り返る活動】**

※ 見通したり振り返ったりする活動に用いる教材です(P6、7参照)。

(2) キャリア・パスポートを活用する意義

キャリア・パスポートを活用した活動を行うことには、例えば次の3つの意義があると考えられます。

<p>① キャリア教育の要としての特別活動の意義が明確に</p>	<p>② 系統的なキャリア教育を進めることに資する</p>	<p>③ 生徒の自己理解、教員の生徒理解を深める</p>
<p>学習や生活を振り返り、気付いたことなどを蓄積し、それらをホームルーム活動においてつなぎ合わせる活動を行うことで、各教科・科目等の学びと特別活動における学びが往還し、自己のキャリア形成につながっていきます。</p>	<p>小学校、中学校、高等学校の各段階における学習や生活を振り返って蓄積していくことにより、発達の段階に応じた系統的なキャリア教育を充実させることになると考えられます。</p>	<p>生徒は、自分自身のよさ、興味・関心、どのように成長してきたかなど、多面的・多角的に自己理解を深めることができます。また、教員は、一人ひとりの生徒の様々な面に気付き、生徒理解を深めていくこととなります。</p>

(3) 期待される効果

● 自律的な生活

○ 学習や生活の見通しをもち、振り返ることを積み重ねる。

* 目標をもって自律的に生活できるようになる。

● 学ぶ意義の自覚、学ぶ意欲の高揚

○ 各教科・科目等で学んだこと、体験したことを振り返り、気付いたことや考えたことなどを適時蓄積する。

○ それらをホームルーム活動においてまとめたり、つなぎ合わせたりする。

* 各教科・科目等を学ぶ意義についての自覚を深める。

* 各教科・科目等を学ぶ意欲が高まる。

● 自己理解の深化

○ 学習や生活の見通しをもち、振り返ることを積み重ねる。

○ それを基に、教員と生徒が対話をしたり、生徒同士の話し合いを行ったりする。

* どのように成長してきたかを把握することができる。

* 自分自身のよさ、興味・関心等、多面的・多角的に自己理解を深めることになる。

● 教員による生徒理解の深化

○ 記録・蓄積したことを基に、教員と生徒が対話をする。

* 一人ひとりの生徒の様々な面に気付き、生徒理解を深めていくことになる。

3 キャリア・パスポートの活用

(1) キャリア・パスポートへの綴り方

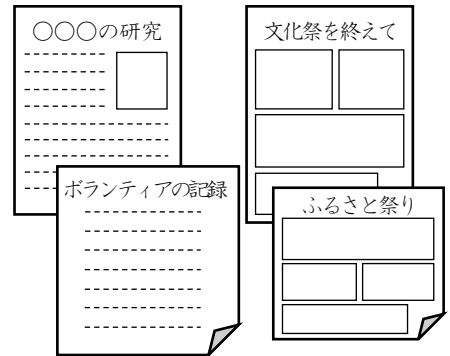
ア 成果物等のファイルへの蓄積 (P4の④)

- 各教科・科目等における学習や日々の生活において学んだこと、体験したことを振り返り、気付いたことや考えたことなどを適時、ファイルに蓄積するようにします。
- ファイルに蓄積する内容として、例えば、次のような事柄が考えられます。

- ☛ 各教科・科目の学習で興味・関心や課題意識をもったこと
- ☛ 文化祭や体育祭等の学校行事で担った役割や印象に残ったこと
- ☛ 生徒会活動で担った役割や印象に残ったこと
- ☛ 学校や家庭における日々の生活に関すること
- ☛ 地域における様々な活動（ボランティア活動、伝統行事への参加等）に関すること
- ☛ 生徒の自己理解に関すること
- ☛ 学習や生活の見通しに関すること（学習や生活の目標、計画等）

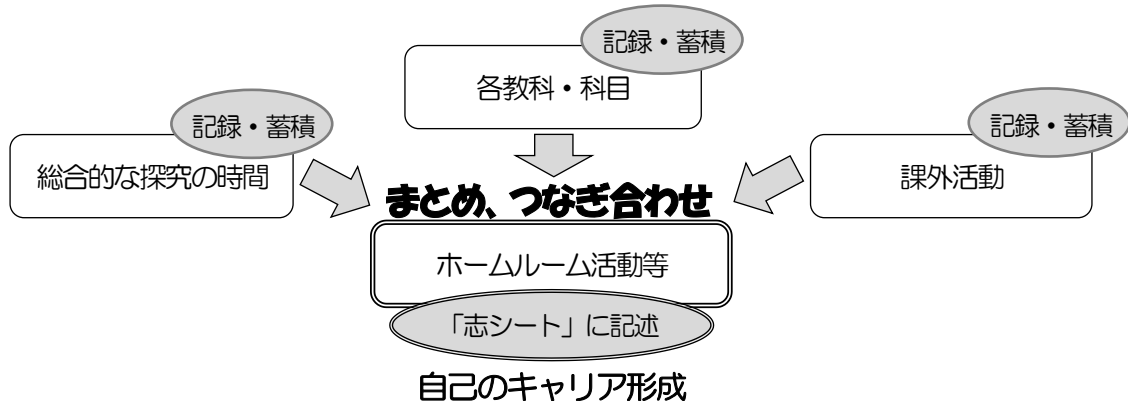
- これらの事柄に関する、レポート等の学習の成果物、学校独自で作成した振り返りシート、ボランティア記録カード、参加した地域の行事のパンフレット、賞状、生徒自身が書き留めたメモ等を蓄積していきます。

- 生徒がどのように成長してきたかを把握する観点から、蓄積する内容を選ぶことが大切です。



イ 「志シート」の記述 (P4の②、③、⑤、⑥)

- 学期末や学年末等の節目に、「志シート」を活用して、蓄積したことをまとめたり、つなぎ合わせたりする活動を行います。その際、ファイルに蓄積したものの中から、生徒が自己理解を深めたり、将来の在り方生き方を考えたりする上で有用なものを精選して、「志シート」とともにキャリア・パスポートに綴ります。なお、キャリア・パスポートに綴るのは、各学年、数ページ（5枚以内）を目安とします。
- 「志シート」を活用して、蓄積したことをまとめたり、つなぎ合わせたりする活動を、ホームルーム活動等において行うことにより、各教科・科目等の学びと特別活動における学びが往還し、教科・科目等の枠を超えて、それぞれの学習が自己のキャリア形成につながっていくことが期待されます。



(2) 「志シート」について



ア 「志シート」の活用について

P11～17 に、「志シート」に指導上の留意点等を書き加えたものなどを掲載しています。

P11	キャリア・パスポートの表紙として、冒頭に綴るようになっています。
P12	<p>生徒向けのメッセージです。表紙の次頁に綴り、この頁に記載している「基礎的・汎用的能力」を生徒に適宜参照させながら、「志シート」に記述させてください。</p> <p>学習や生活を振り返って気付いたことや考えたことを、「志シート」にまとめたり、つなぎ合わせたりする活動を通して、「基礎的・汎用的能力」を育成することが大切です。</p>
P13～17	<p>「志シート」に、記述に関する指導上の留意点等を示していますので、参考にしてください。</p> <p><例></p>

イ 「志シート」の活用にあたっての留意点

● ホームルーム活動等において記述すること

気付いたことや考えたことなどを「志シート」を活用してまとめたり、つなぎ合わせたりする活動は、ホームルーム活動等において行うようにしてください。これにより、学校の教育活動全体で行うキャリア教育の要としての特別活動の意義が明確になります。

なお、ホームルーム活動以外に、教科・科目や学校行事、ショートホームルーム等において記述することも考えられます。

● 地域・各学校における実態に応じた柔軟な工夫

県教育委員会が提供する「志シート」を活用しつつ、各地域・各学校における実態に応じ、学校間で連携しながら、柔軟な工夫を行うことは可能です。

こうした工夫により、小学校から中学校、高等学校まで、さらにその後の進路も含め、学校段階を越えて活用できるようなものとなります。

(3) 効果的な指導方法

● 横をつなぐ（各教科・科目等の枠を超えた学び）

- 各教科・科目等の学びと特別活動における学びが往還し、教科・科目等の枠を超えて、それぞれの学習が自己のキャリア形成につながっていくようにすることが大切です。
- そのために、各教科・科目等における学習や日々の生活について記録、蓄積したことを、「志シート」を活用し、ホームルーム活動等においてまとめたり、つなぎ合わせたりする活動を行うことが有効です。

● 縦をつなぐ（発達の段階に応じた系統的なキャリア教育）

- 小学校から中学校、高等学校へと、発達の段階に応じた系統的なキャリア教育を進めることに資することが大切です。
- そのために、キャリア・パスポート等を活用して、小・中・高等学校の各段階における学習や生活を振り返って蓄積していくことが有効です。その際、各市町において、連続した取組が可能となるよう、キャリア・パスポート等の活用方法を共有することが有効です。

● 教員との対話、生徒同士の話し合いを大切にする

- 記述したり蓄積したりする活動に偏重することがないように、記録・蓄積したことを基に、教員と生徒が対話をしたり、生徒同士の話し合いを行ったりすることが大切です。
- そうすることで、生徒にとっては、自分自身のよき、興味・関心等、多面的・多角的に自己理解を深めることとなります。また、教員にとっては、一人ひとりの生徒の様々な面に気づき、生徒理解を深めていくこととなります。

● 蓄積した成果物を精選する

- 各教科・科目等における学習、学校や家庭における日々の生活、地域における様々な活動などについて、適時記録・蓄積した成果物等を、進級・進学時に精選することが大切です。
- その際、教員の適切な指導の下、生徒が自己理解を深めたり、将来の在り方生き方を考えたりする上で有用なものを上級学年・上級学校に引き継ぐことが有効です。

● 各地域・各学校の実態に応じて工夫する

- 小学校から中学校、高等学校まで、その後の進路も含め、学校段階を越えて活用できるようなものにすることが大切です。
- そのために、国や県教育委員会等が提供する各種資料等を活用しつつ、各地域・各学校の実態に応じ、学校間で連携しながら、柔軟な工夫を行うことが大切です。

(4) 活用する上での留意点

ア キャリア・パスポートの形態について

キャリア・パスポートは各学校が柔軟に工夫して活用するものですが、地域・学校ごとに大きさ・形がまちまちであると、保存・管理する上で利便性に欠けます。地域を越えて進学、転入学する場合があることを踏まえ、キャリア・パスポートは、A4判サイズを標準とします。

イ 書いたり蓄積したりする活動に偏重しないこと

キャリア教育の趣旨やホームルーム活動全体の目標に照らし、書いたり蓄積したりする活動に偏重した内容の取扱いにならないように配慮が求められます。「志シート」に記述したことなどを基に、生徒と対話をしたり、生徒同士の話し合いを行わせたりして、生徒にとっての自己理解や教員にとっての生徒理解を深めることが大切です。

ウ 保管について

個人情報保護及び紛失防止の観点から、原則、教員が保管するようにしてください。ただし、学校内に保管場所を確保することが困難な場合は、生徒が自宅で保管することも考えられます。

なお、生徒に自宅で保管させる場合には、紛失しないように十分に留意してください。

高等学校卒業後は、その後の進路に活用することができるよう、生徒自身に保管させます。

エ プライバシーや個人情報保護に配慮すること

保管場所を指定する、教員は原則として学校外に持ち出さないなど、プライバシーや個人情報保護に関して適切に配慮してください。

《参考》

平成28年3月2日付け平27教職第581号「学校における個人情報の取扱いについて」

平成18年5月「学校における個人情報の適切な管理について」(山口県教育委員会)

オ 進学時の引継ぎについて

学年間の引継ぎは、原則、教員間で行ってください。

また、校種間の引継ぎは、原則、生徒を通じて行ってください。

なお、キャリア・パスポートを引き継ぐ方法について中学校との間で共通理解を図っておくことが必要です。各地域において、小学校、中学校、高等学校へと連続した取組が可能となるよう教材等の工夫や活用方法を共有しておくことも大切です。

【資料1】キャリア・パスポートに関する学習指導要領上の規定

- 高等学校学習指導要領第5章第2の3の(2)に、次のように示されています。

内容の(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の在り方生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。

※ 内容の(3)とは、「一人一人のキャリア形成と自己実現」のことです。

- 高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第1節の4の(2)に、次のように示されています。

「生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用する」とは、こうした活動を行うに当たっては、振り返って気付いたことや考えたことなどを、生徒が記述して蓄積する、いわゆるポートフォリオ的な教材のようなものを活用することを示している。特別活動や各教科等における学習の過程に関することはもとより、学校や家庭における日々の生活や、地域における様々な活動なども含めて、教師の適切な指導の下、生徒自らが記録と蓄積を行っていく教材である。

こうした教材を活用した活動を行うことには、例えば次のような三つの意義があると考えられる。

一つ目は、高等学校の教育活動全体で行うキャリア教育の要としての特別活動の意義が明確になることである。例えば、各教科・科目等における学習や特別活動において学んだこと、体験したことを振り返り、気付いたことや考えたことなどを適時蓄積し、それらをホームルーム活動においてまとめたり、つなぎ合わせたりする活動を行うことにより、目標をもって自律的に生活できるようになったり、各教科・科目等を学ぶ意義についての自覚を深めたり、学ぶ意欲が高まったりするなど、各教科・科目等の学びと特別活動における学びが往還し、教科・科目等の枠を超えて、それぞれの学習が自己のキャリア形成につながっていくことが期待される。

二つ目は、小学校から中学校、高等学校へと系統的なキャリア教育を進めることに資するということである。ポートフォリオ的な教材等を活用して、小学校、中学校、高等学校の各段階における学習や生活を振り返って蓄積していくことにより、発達の段階に応じた系統的なキャリア教育を充実させることになると考えられる。例えば都道府県市区町村において、連続した取組が可能となるよう教材等の工夫や活用方法を共有したりすることは大変有効である。

三つ目は、生徒にとっては自己理解を深めるためのものとなり、教師にとっては生徒理解を深めるためのものとなることである。学習や生活の見通しを持ち、振り返ることを積み重ねることにより、生徒は、年間を通して、あるいは入学してから現在に至るまで、どのように成長してきたかを把握することができる。特に、気付いたことや考えたことを書き留めるだけでなく、それを基に、教師との対話をしたり、生徒同士の話し合いを行ったりすることを通して、自分自身のよさ、興味関心など、多面的・多角的に自己理解を深めることになる。また、教師にとっては、一人一人の生徒の様々な面に気づき、生徒理解を深めていくことになる。

こうした教材については、小学校から中学校、高等学校まで、その後の進路も含め、学校段階を越えて活用できるようなものとなるよう、各地域の実情や各学校やホームルームにおける創意工夫を生かした形での活用が期待される。国や都道府県教育委員会等が提供する各種資料等を活用しつつ、各地域・各学校における実態に応じ、学校間で連携しながら、柔軟な工夫を行うことが期待される。

指導に当たっては、キャリア教育の趣旨やホームルーム活動全体の目標に照らし、書いたり蓄積したりする活動に偏重した内容の取扱いにならないように配慮が求められる。なお、プライバシーや個人情報保護に関しても適切な配慮を行うことも求められる。

- ※ 『やまぐちっ子キャリア・パスポート ー高等学校版ー』活用の手引きは、学習指導要領（平成30年3月告示）解説特別活動編等を参考にして作成したものです。

やまぐちっ子

キャリア・パスポート

— 高等学校版 —



学校名					学科名	
1年	組	番	氏名			
2年	組	番				
3年	組	番				
4年	組	番				

「やまぐちっ子 キャリア・パスポート」の活用にあたって

人口減少・高齢化の進展や急速な技術革新、グローバル化の進展など、皆さんを取り巻く環境は大きく変化しており、さらにこれからの社会は、人生 100 年時代の到来や、超スマート社会の実現に向けた技術革新の一層の進展など、大きく、また急速に変化することが予想されています。

このように、社会の変化が激しさを増し、複雑で予測困難となることが見込まれるこれからの難しい時代においては、高い志をもち、多様な人々と協働しながら、主体的に自らの将来や社会を力強く切り拓いていくことが求められます。

また、人は他者や社会との関わりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等様々な役割を担いながら生きています。こうした様々な役割について、人はその関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいきます。

皆さん自身が「様々な役割の関係や価値を自ら判断」し、「取捨選択や創造を重ねる」ためには、日々の振り返りや、学期、学年ごとの振り返りを積み重ねていくことが大切であり、こうした積み重ねが、変化の激しい社会を生き抜いていくために必要な「基礎的・汎用的能力」を身に付け、キャリアを形成することにつながっていきます。

この「やまぐちっ子 キャリア・パスポート」は、学習や生活を見通したり、振り返ったりするために用いる教材です。皆さんが、この教材を活用してキャリアを形成し、夢を志に高め、主体的に自らの将来や社会を力強く切り拓いていくことを期待しています。

基礎的・汎用的能力

人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

(例) 他者の個性を理解する力、チームワーク
コミュニケーション・スキル、リーダーシップ等

自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力

(例) 自己の役割の理解、前向きに考える力
自己の動機付け、忍耐力、主体的行動等

課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力

(例) 情報の理解・選択・処理等、本質の理解
原因の追究、課題発見、計画立案、実行力
評価・改善等

キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

(例) 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解
多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等

1年	組	番	氏名	年	月	日	記入
----	---	---	----	---	---	---	----



〇〇学校に入学して

これからの学校生活や将来に向けて

将来の夢や希望

キャリアプランニング能力

- 希望の業種・職種、将来設計等、自己の在り方生き方についての考えを深めさせます。

めざす卒業時の姿

※「基礎的・汎用的能力」を参考にして、高校生活を通して高めたい力を考えましょう。

自己理解・自己管理能力

生徒が記入する内容を「○」で、指導上の留意点を「●」で示しています。（以下、同じ。）

- 高校生活3年間を通して、どのような資質・能力を身に付けた人間になりたいかを記入します。
- 基礎的・汎用的能力の具体的要素を参考にして記入させます。

自分のプロフィールをつくろう

興味・関心のある教科	趣味・特技
自己理解・自己管理能力	
自分のよさ	克服したいこと・伸ばしたいところ
自己理解・自己管理能力	
自己PR	自己理解・自己管理能力 人間関係形成・社会形成能力
<ul style="list-style-type: none"> ● 自分自身のよさ等、自己理解を深めさせるとともに、自分の考えや願いを相手に伝えることの大切さを意識させます。 	
中学校生活でがんばったことや心に残っていること	
自己理解・自己管理能力	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校での学びを振り返り、気付いたことや考えたことを記入します。 ● 高校生活の目標設定につなげることを見据えて記入させます。 	

先生から

ホームルーム担任等がコメントを記入します。生徒が自分自身のよさや興味・関心等について自己理解を深めながら、学習や生活の見通しを立て、新たな学習や生活への意欲につなげるようにします。

年	組	番	氏名	年	月	日	記入
---	---	---	----	---	---	---	----

〇年生になって



めざす学年末の姿

※ 「めざす卒業時の姿」を見据え、「基礎的・汎用的能力」を参考にして、〇年生で高めたい力を考えましょう。

自己理解・自己管理能力

- この1年間を通して、どのような資質・能力を身に付けた人間になりたいかを記入します。
- 基礎的・汎用的能力の具体的な要素を参考にして記入させます。また、入学時に設定した「めざす卒業時の姿」を見据えた内容となるようにします。

● 教科・科目の学習で力を入れたいこと

自己理解・自己管理能力

- 「めざす学年末の姿」の実現に向け、各教科・科目の中で特に力を入れたい教科・科目とその内容について記入します。
- 「めざす学年末の姿」の実現にどのようにつながるかについて考えさせます。

● 総合的な探究(学習)の時間で取り組みたいこと

課題対応能力

キャリアプランニング能力

- 総合的な探究(学習)の時間において取り組む課題について、課題設定の理由、計画の概要等を記入します。
- 「めざす学年末の姿」の実現にどのようにつながるかについて考えさせます。

● 学校行事・生徒会活動で力を入れたいこと

人間関係形成・社会形成能力

自己理解・自己管理能力

- 学校行事や生徒会活動において担いたい役割、他の生徒と協力・協働して取り組みたいことなどを記入します。
- 「めざす学年末の姿」の実現にどのようにつながるかについて考えさせます。

● 課外活動(部活動・ボランティア活動・習い事等)で力を入れたいこと

人間関係形成・社会形成能力

自己理解・自己管理能力

- 「めざす学年末の姿」の実現に向け、部活動、ボランティア活動、習い事、家庭、地域での活動等の課外活動の中で、特に力を入れたいことについて記入します。
- 「めざす学年末の姿」の実現にどのようにつながるかについて考えさせます。

● 進路実現に向けて取り組みたいこと(インターンシップで体験したいこと、取得したい資格・検定など)

キャリアプランニング能力

- 「〇〇学校に入学して」の「将来の夢や希望」を見据え、進路実現に向けて取り組みたいことを記入します。インターンシップで体験したい業種・職種、希望の進路に必要な資格・検定等が考えられます。

先生から

ホームルーム担任等がコメントを記入します。学習や生活の見通しを立て、新たな学習や生活への意欲につなげるようにします。

年	組	番	氏名	年	月	日	記入
---	---	---	----	---	---	---	----

○学期を終えて



めざす学年末の姿に向けて

実現度

1	2	3	4
---	---	---	---

学年の初めに設定した「めざす学年末の姿」に近づいたと思う点、実現に向けて努力したい点など

1…努力が必要 2…少し近づいた 3…概ね実現 4…実現

自己理解・自己管理能力

- その後の学習や生活への意欲を高めるようにします。

「めざす学年末の姿」の実現状況を、1～4の4段階で自己評価し、該当の数字に○印をつけます。

● 教科・科目の学習の記録(成果や課題、興味・関心をもった内容など)

自己理解・自己管理能力

- 「〇年生になって」シートの「教科・科目の学習で力を入れたいこと」に記入した内容について、達成したことや今後さらに学習を深めたいと思ったことなどを記入します。
- 各教科・科目を学ぶ意義についての自覚を深めさせたり、学ぶ意欲を高めたりするようにします。

● 総合的な探究(学習)の時間の記録(研究テーマ、計画の進み具合、教科・科目の学習が生かされた点など)

課題対応能力

キャリアプランニング能力

- 「〇年生になって」シートの「総合的な探究(学習)の時間で取り組みたいこと」に記入した内容について、研究テーマや計画の進み具合等を記入します。
- 自己の在り方生き方についての考えを深めさせます。

● 学校行事・生徒会活動の記録(役割、印象に残ったことなど)

人間関係形成・社会形成能力

自己理解・自己管理能力

- 「〇年生になって」シートの「学校行事・生徒会活動で力を入れたいこと」に記入した内容について、実際に果たした役割や、他の生徒と協力・協働する中で気付いたことなどを記入します。
- 自己の役割や、他者と協力・協働することの大切さについての理解を深めさせます。

● 課外活動(部活動・ボランティア活動・習い事等)の記録(大会の成績、活動実績など)

人間関係形成・社会形成能力

自己理解・自己管理能力

- 「〇年生になって」シートの「課外活動で力を入れたいこと」に記入した内容について、部活動で参加した大会の成績、ボランティア活動の実績、参加した地域の行事等、取組状況を記入します。
- 「めざす学年末の姿」の実現にどのようにつながったかという視点で記入させます。

● 進路実現に向けた取組の記録(インターンシップで体験したこと、上級学校や職業等について調べたこと、取得した資格・検定など)

キャリアプランニング能力

- 「〇年生になって」シートの「進路実現に向けて取り組みたいこと」に記入した内容について、インターンシップで体験したこと、上級学校や職業等について調べたこと、取得した資格・検定など、取組状況を記入します。

先生から

ホームルーム担任等がコメントを記入します。生徒の多面的・多角的な自己理解を深めるようにします。特に、生徒自身がどのように成長したかを把握することができるようにします。

年	組	番	氏名	年	月	日	記入
---	---	---	----	---	---	---	----

○学年を終えて



めざす学年末の姿 実現状況

実現度

1 2 3 4

学年の初めに設定した「めざす学年末の姿」について、実現できたと思う点、「めざす卒業時の姿」に近づいたと思う点、今後の課題など

1…努力が必要 2…少し近づいた 3…概ね実現 4…実現

自己理解・自己管理能力

- その後の学習や生活への意欲を高めるようにします。

「めざす学年末の姿」の実現状況を、1～4の4段階で自己評価し、該当の数字に○印をつけます。

● 教科・科目の学習の記録(成果や課題、興味・関心をもった内容など)

自己理解・自己管理能力

- 「〇年生になって」シートの「教科・科目の学習で力を入れたいこと」に記入した内容について、達成したことや今後さらに学習を深めたいと思ったことなどを記入します。
- 各教科・科目を学ぶ意義についての自覚を深めさせたり、学ぶ意欲を高めたりするようにします。

● 総合的な探究(学習)の時間の記録(研究テーマ、計画の進み具合、教科・科目の学習が生かされた点など)

課題対応能力

キャリアプランニング能力

- 「〇年生になって」シートの「総合的な探究(学習)の時間で取り組みたいこと」に記入した内容について、研究テーマや計画の進み具合等を記入します。
- 自己の在り方生き方についての考えを深めさせます。

● 学校行事・生徒会活動の記録(役割、印象に残ったことなど)

人間関係形成・社会形成能力

自己理解・自己管理能力

- 「〇年生になって」シートの「学校行事・生徒会活動で力を入れたいこと」に記入した内容について、実際に果たした役割や、他の生徒と協力・協働する中で気付いたことなどを記入します。
- 自己の役割や、他者と協力・協働することの大切さについての理解を深めさせます。

● 課外活動(部活動・ボランティア活動・習い事等)の記録(大会の成績、活動実績など)

人間関係形成・社会形成能力

自己理解・自己管理能力

- 「〇年生になって」シートの「課外活動で力を入れたいこと」に記入した内容について、部活動で参加した大会の成績、ボランティア活動の実績、参加した地域の行事等、取組状況を記入します。
- 「めざす学年末の姿」の実現にどのようにつながったかという視点で記入させます。

● 進路実現に向けた取組の記録(インターンシップで体験したこと、上級学校や職業等について調べたこと、取得した資格・検定など)

キャリアプランニング能力

- 「〇年生になって」シートの「進路実現に向けて取り組みたいこと」に記入した内容について、インターンシップで体験したこと、上級学校や職業等について調べたこと、取得した資格・検定など、取組状況を記入します。

先生から

ホームルーム担任等がコメントを記入します。生徒の多面的・多角的な自己理解を深めるようにします。特に、生徒自身がどのように成長したかを把握することができるようにします。

年	組	番	氏名	年	月	日	記入
---	---	---	----	---	---	---	----

〇〇学校卒業に当たって



3年間の生活を振り返って

入学時に立てた「めざす卒業時の姿」

- 「〇〇学校に入学して」シートの「めざす卒業時の姿」に記入した内容を転記します。
- 初心に立ち返り、高校生活3年間で振り返るきっかけとなるようにします。

《実現状況》

自己理解・自己管理能力

- 「めざす卒業時の姿」の実現状況を自己評価して記入します。
- 基礎的・汎用的能力を参考にして、3年間で向上した資質・能力や、今後身に付けたい資質・能力を記入させます。

● 3年間の高校生活で印象に残っていること、がんばったこと、自己の将来に生かしたい点など

課題対応能力

キャリアプランニング能力

- 高校生活3年間で振り返り、印象に残っていることやがんばったことなどを記入します。
- 3年間の学びの中で、自己の将来に生かしたい点についても記入させ、学ぶことの意義についての自覚や、自己の在り方生き方についての考えを深めさせます。

● 家族・友人・先生等に伝えたいこと

人間関係形成・社会形成能力

- 高校生活3年間で振り返り、他者との関わりの中で成長した点等を踏まえ、家族・友人・先生等に対して、感謝の気持ちや今後の進路に向けた決意等を伝えます。

これからの人生に向けて

● 私の“志” ※ これまでに抱いてきた「夢や希望」を、自己実現や社会への貢献等の視点に立って具体的に書きましょう。

人間関係形成・社会形成能力

キャリアプランニング能力

- 自ら主体的に判断してキャリアを形成していくとともに、社会に参画し、今後の社会を積極的に形成する意志を高めるようにします。

● 10年後の私へのメッセージ

キャリアプランニング能力

- 「私の“志”」の実現に向けた中間目標を設定し、10年後の自分に向けたメッセージとして記入します。

先生から

- ホームルーム担任等がコメントを記入します。生徒が将来の在り方生き方を考えるきっかけを与えるとともに、卒業後の進路に対する意欲につなげるようにします。

各種資料のダウンロード元

- 県教委が提供する「やまぐちっ子キャリア・パスポート」例示資料及び教員用指導資料
山口県教育庁高校教育課ウェブページ
URL : <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50300/index/index.html>